

八頭町総合教育会議(第11回) 会議録

一 日 時 令和6年12月24日(金)15:05～17:10
二 場 所 船岡庁舎 1階 庁議室
三 出席者 吉田町長 藤田総務課長
 薮田教育長 小林委員 上島委員 大上委員 谷口委員
事務局 奥平次長兼学校教育課長、田中社会教育課長
書記 学校教育課主任 小谷

- 四 議事日程
- 1 開 会
 - 2 会議録署名委員の指名
 - 3 町長あいさつ
 - 4 協議事項
 - (1) 令和6年度全国学力、学習状況調査の結果
 - (2) 令和7年度当初予算の基本方針について
 - ① 八頭町共通学力検査
 - ② 少人数学級
 - ③ 特別支援員の充実
 - ④ 通級指導の充実
 - ⑤ 特別支援学校登校支援(医ケア児含)
 - ⑥ 小中学校入学祝い金
 - ⑦ 大学等入学支援事業
 - ⑧ 八頭高等学校生徒下宿費補助金
 - ⑨ 八頭町県外優秀アスリート受入支援事業
 - ⑩ 県外優秀アスリート民間学生寮運営事業
 - ⑪ スポーツ指導員の継続配置
 - ⑫ 卒業証書の作成
 - (3) いじめ・不登校の状況について
 - (4) ICT、DX の取り組みについて
 - ・ICT 支援員の継続配置、スパトレ、eラーニング、百問繚乱
ライフイズテック、日本海新聞 for スタディ
 - (5) 小・中学校改修事業について
 - (6) 各校コミュニティ・スクールの状況について
 - (7) 今後の課題
 - ① 中学校休日の部活動の地域移行について
 - ② 学校給食について
 - ③ 公民館(地区公民館含)のありかたについて
 - ④ 体育館の空調設備について
 - 5 その他
 - 6 閉会

— 会 議 の 経 過 —

1 開 会 15:05

2 会議録署名委員の指名

小林教育委員 大上教育委員

3 町長あいさつ

町長部局も教育委員会部局も子供たちをすくすく育てるというのは同じ目的。八頭町の未来を担う子供たちの成長を楽しみにしている。子供は地域の宝と言われるが、自分が子供の頃と今では大きく変わった。保護者や地域との関わりも少なくなってきた。コミュニティスクールの取り組みが始まっているが、なかなか以前のようにならないと思う。教育環境の充実は学校設備だけでなく、DX、IT化など多岐に渡り、大変な時代を迎えていると思う。

4 協議事項

(1)R6全国学力、学習状況調査の結果について

- ・小学校では国語・算数ともに無解答率がとても低く、根気強く問題に向かったことが伺える。中学校では国語の内容を要約する問題、書き表し方を工夫する問題や、数学のデータの活用の領域等は全国平均より高い結果だった。児童・生徒質問紙からは、先生や友達とよい関係が築けていること、メディアに触れる時間が増えてきていることなどが伺える。

(町長)だいたいこのような傾向か。

(教育長)下がり続けている傾向にあるが、これは全国平均、県平均とも同様の傾向にあることから、問題の作り方が変わってきていることも要因と考えられる。平成30年と同じような問題であればもう少し取れると思う。

(町長)小学生の方が新聞をよく読んでいます。

(委員)そもそも新聞をとっていない家庭が増えている。デジタル化。

(委員)隅々まで読むことが新聞を読むことだと思っている人がいるが、見出しを見て気になった所だけ中身を読むなど、新聞の読み方を教える必要もある。

(2)R7当初予算の基本方針について

① 八頭町共通学力検査

- ・八頭町では標準学力調査を小1から中3まで全員が受けている。小学校は12月、中学校は1月に行うので、1年間の学習内容が身についているかを見るための貴重な検査。子どもも先生も一年間を振り返る良い機会になっている。
- ・全国学力学習状況調査は小6と中3が受ける。

② 少人数学級

- ・中学校は1年生が全額県費だが、2年生の協力金一人当たり200万円で2名分お願いしたい。

③ 特別支援員の充実

・令和7年度の特別支援学級は郡家東小3クラス、郡家西小6クラス、船岡小2クラス、八東小2クラス、八頭中5クラスとなっている。予算は小学校19名、中学校2名を要求している。八頭町は5歳児健診の早いうちからきめ細かに対応しており、早いうちに通常学級に戻れるよう先を見て対応している。

(教育長)特別支援学級の児童数は右肩上がりが増えてきている。

(委員)ぜひ特別支援員を充実させてほしい。安部小学校時代に、特別支援員を配置してもらっていたが、子供たちにとってとても意味のあるものだった。担任だけでなく目が行き届かないこともあり、特別支援員がいることで学習に前向きに取り組めた。担任も自分では気付かなかったことに気付けた。

④ 通級指導の充実

・郡家西小を拠点校として、今年度は郡家東小2名、郡家西小6名、船岡小6名、八東小4名が入級している。対象児童は特別支援学級ではなく、通常学級の児童が条件で、入級判定会で決定している。

・送迎が難しい家庭は片道タクシーを利用し、料金は町が負担している。

・対象人数も増えてきている。今年度は18名だが、控えている児童が多い。通級指導できる教員を2名配置してほしいと県に依頼しているが、元々の教員不足にあわせ、通級指導ができる先生も少なく実現できていない。

(町長)県の助成はあるか。他市町の状況はどうか。

(教育長)完全に町費でしている。智頭、若桜は1校なので自校完結、岩美は3校だがどうしているか不明。

⑤ 特別支援学校登校支援(医ケア児含)

(1) 医療的ケア児の通学支援について

・児童3名について鳥取養護学校への登校支援をしている。支援をすることで登校日数が増えていると学校、保護者から有り難いと言葉をもらっている。

・今まで登校支援には運転手と看護師を委託していたが、令和6年1月から運転手、9月から看護師1名雇用できたが、今後も人材確保が課題。

・義務教育期間中は支援を継続していきたいが、高等部になるときにどうしていくかが課題。関係機関(福祉課)と話をしていけないといけぬ。

(2) 特別支援学校(白兔養護学校)の通学支援について

・中等部の生徒が白兔養護学校のスクールバスで通学しているが、スクールバス乗り場までの保護者送迎が困難になったため、町で運転手を雇用し役場前まで送っている。中等部卒業後どうするかが課題。

(町長)他市町の状況はどうか。

(教育長)湯梨浜がしている。そもそも対象児童がいるかどうか。高校は義務教育ではないのでどうするかという課題がある。

⑥ 小中学校入学お祝い金

・小学校2万円、中学校3万円分の商品券を支給している。物価高騰及び中学校制服を令和8年度から変更するよう進めていることもあり、入学お祝い金を小

学校3万円、中学校5万円分に増額したい。

⑦ 大学等入学支援事業

・令和5年度から始まった事業。今年度は3名だった。来年度は9名分計上。

⑧ 八頭高等学校生徒下宿費補助金

・令和6年度は3名が八頭高校に通っている。令和7年度は現在の認定者が2名、新入生の見込みが6名、計8名分を計上。

⑨ 八頭町県外優秀アスリート受入支援事業

・八頭高校ホッケー部に県外から優秀な生徒を受け入れている。生活費として一人当たり月額5万円を補助している。来年度の予定は16名。新3年生2名、新2年生7名、新1年生7名としている。新1年生は今年度8名予定していたが、実績は7名だった。県と町がそれぞれ1/2の負担割合。

⑩ 県外優秀アスリート民間学生寮運営事業について

・錬志寮、翠翔寮の管理人と調理員、巡視員について県と1/2ずつ負担して民間学生寮を運営するもの。同窓会にお願いしている。
・人件費の調理員の単価と共済費の労災保険の掛け率が管理人と調理人共に昨年より上がっている。

⑪ スポーツ指導員の継続配置

・スポーツ指導員はホッケーの普及・強化活動を行っている。主に小中学校の大会等と平日は船岡小以外の各小学校で曜日を決めて出ている。土曜日は鳥取ホッケークラブで八頭高校から練習をしている。
・小中学校共に人数の確保が難しく、体験会を開催し普及を図っている。
・総合型地域SC研修会に参加し、公認アシスタントマネージャーの資格を取得されている。中学校の休日の部活動に移行していく場合、受け皿として地域スポーツクラブを設置する際に協力してもらえると考えている。

⑫ 卒業証書の作成

・卒業証書の筆耕をお願いできる人も少なくなってきた。また、筒では保管しにくいという意見もあり、近年は折り畳み式のケースや表紙の付いた表彰状にしている学校も増えている。本町においても、氏名・校長印を含め印刷にし、折り畳みケースや表紙付きにすることについて検討を行っている。

(3) いじめ・不登校の状況について

① 令和6年度 児童生徒の不登校に関する調査

・昨年度より減っている。教室で学習を受けたり、相談室等で個別指導を受けたりしながら、以前より良い変容がみられている。学校とスクールソーシャルワーカーで情報共有を行い、家庭への支援や関係機関とも連携して対応している。

② 令和6年度 児童生徒の問題行動等に関する調査

- ・問題行動、いじめの多くが4月～6月に集中しているが、新しい環境になった不安が大きく影響しているように思う。スクリーニングシートの活用を行ったり、子どもを語る会等で情報共有をしたりして問題行動・いじめの未然防止のためにチームで対応する組織づくりを推奨している。

③ やず教育支援センター「みどりヶ丘教室」の通級状況

- ・現在16名が通っている。
- ・在学中に学校復帰できていない児童生徒が、高校受験を機にとり、卒業後に活躍している子供たちが多く、ここでの活動は子供たちのサポートとなって、社会に復帰するための基礎になっていると感じている。

(町長) 全体的に不登校は減っているか。

(教育長) 減っているが大変。いじめと問題行動はなるべく拾うようにしているので、以前より数は増えているかもしれない。家庭環境の影響もあると思う。児相への通告はためらわずにするよう伝えている。

(委員) 学級で問題行動をした時に、何をしているのかと言われる。自分のクラスにはないと思いたいが逆。アンテナの感度がよければ、問題行動やいじめの認知件数は増える。それを良しとしないと家庭や関係機関との連携につながらない。考え方は昔より良くなってきた。八頭町はトータル的な施策をしており町の魅力でもあると思う。

(4) ICT、DX の取り組みについて

① ICT 支援員の配置

- ・令和7年度は児童生徒のタブレットの更新となる。授業での活用も増え、めまぐるしく変わる ICT 環境下で時間に余裕のない現場教員にとって対応していくことが困難であり、授業を円滑進めるためにも引き続き支援員の配置をお願いしたい。

② スパトレ(オンライン英会話授業)

- ・マンツーマンで英会話していくスパトレは、ネイティブな発音に親しみを持てるよう令和5年度から実施している。生徒たちは楽しみながら会話しており、令和7年度も1年生3回、2年生と3年生は年5回実施したい。

③ eラーニング(ICT 機器を使った学習)

- ・ネット環境がない家庭が1割程度あり、ネット環境がなくても ICT 機器を使って学習できる教材。小学校でも持ち帰りが増えており、eラーニングを使った学習機会が今後増えていく。

④ 百問繚乱(自動採点システム)

- ・中学校で使用している。自動採点だけでなく、集計や分析もでき大変重宝されている。今後も活用していきたい。

⑤ ライフ・イズ・テック

(中学生向けテキストコーディングによるプログラミング教育教材)

- ・本年度より大学入試共通テストに「情報1」が科目として追加される。これにより、中学校からのプログラミング教育が重要になってくる。昨年度からこの教材をトライアルで活用しているが、生徒は教材に沿って自分のペースで学習し、知識・技術を習得している。信頼できる教材なので、引き続き活用していきたい。

⑥日本海新聞 for スタディ

- ・本年度より全小中学校においてトライアルで活用している。新聞離れが進み、新聞を購読していない家庭が増えてきていると思われる。本教材は、ニュースを読んだり、過去のニュースを調べたりできるので、社会の動きや様子を知るための良い教材。また、日本海新聞は、地域の情報が豊富なので、地域で活躍する人や場所・行事等の良さを知る良いコンテンツである。さらに新聞づくりをデジタルで行うことができ、児童・教師からの評価も高いため、今後も活用していきたい。

(町長)タブレットはいつ変えるのか。

(教育長)R7年度に契約等を行い、R8年度から新しいタブレットに変える。八頭町はR8年度の予定だったが、他市がしなくなったため前倒しとなった。

(町長)年次的に契約するのか。

(教育長)小中一緒にする。2/3が県の基金、1/3が町負担。

(5)小・中学校改修事業について

①郡家東小学校長寿命化改修

- ・無事工期内に終了し、2学期から改修した校舎において授業を実施。仮設校舎も10月末には撤去・跡地整備が完了した。省エネルギー性の向上、エレベーター設置等によるバリアフリー化の推進により、今後も多様な学習環境・学習形態による活動に対応できる施設として長期間利用できる環境が整備できた。

②今後考えていく必要がある改修工事

(1)八東小学校体育館改修工事

- ・以前は社会体育施設（旧八東若者体育館）であり、屋上・屋根の一部は改修しているものの建築から40年経過しているため劣化が激しく、床や壁面にささくれや亀裂などが確認されている。ささくれ等により児童が大けがをする可能性もあるため早急な対応が必要。体育館は災害発生時の避難所に指定されていることから、近年の猛暑等にも対応できるよう空調設備の設置等も併せて行う必要がある。

(2)町内小中学校体育館の非構造部材の耐震工事

- ・体育館のバスケットゴール、照明器具、固定窓（閉開できない）等の耐震調査と工事について検討が必要。

(3)船岡小学校エレベーター設置工事

- ・ここ数年の小学校改修工事を経て町内の学校でエレベーターが設置されていないのは船岡小学校のみ。町内全学校で障がいのある児童生徒の受け入れが可能となる環境を整えるためにもエレベーターを整備したい。

(教育長)この他に、郡家東小学校の体育館の防水シート、外壁の改修も課題。

(6)各校コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の状況について

・運営協議会は各校2回開催し、第3回を年度末に開催して、今年度の評価や次年度に向けての方針について協議する予定としている。

(町長)地域によって差があるか。

(教育長)数字で比べられないので一概には言えないがあると思う。船岡のように濃くやってきた所や、郡家西小のような所など。

(7)今後の課題

①中学校休日の部活動の地域移行について

・県の方針が出され、できるところから実施していくようにとのことであるが、受け皿が難しく、地域移行しないという選択肢も含め、関係機関で考えていきたい。

②学校給食について

・調理員が不足していることから調理員の採用について条件を変更してはどうかと考えている。調理場は13年目を迎え、施設及び厨房機器の老朽化や劣化が進んできている。定期的に点検等を実施し、維持管理しているが、前兆なく突発的な故障により、給食提供ができなくなる事態も発生している。修理までに長期間を必要とする場合もあり、厨房機器の更新を計画的に実施していく必要がある。

③公民館(地区公民館含)のありかたについて

・地区公民館をコミュニティセンターに移行していきたいが、地区公民館の館長、主事のなり手もなかなか厳しい。モデル地区を考えている。
・中央公民館が築49年経過し老朽化が進んでおり、中央公民館もどうするか考える時期がきている。建て替えるのであれば、図書館も併せて考えていきたい。

④体育館の空調設備について

・近年の夏は異常な暑さであり、学校では夏場屋外はもとより体育館においても体育の授業を行うことが困難となっている。また、近年、全国的に大規模な災害も頻繁に発生しているが、体育館は災害の際の避難所にもなっていることから、避難所としても早急にエアコンの整備が必要と考える。

(教育長)この他に、船岡のゲートボール場の柱が腐食している。雪に耐えられない可能性があり、取り壊しも考えないといけない。

(委員)先生達が八頭町の未来を握っているという思いを持ってもらわないといけない。20年後を支える子供たちを育てるという意識。質問紙の中に「地域や社会のために何かしているか」とあるが八頭町は低い。将来八頭町をどうこうしようと思っていない子供たちが多いかもしれない。どう向き合うかという投げかけを小中を通してやっていくことが八頭町が生きる道のひとつだと思う。

(町長)大学は県外に出るが、巣立ったところに帰ってほしい気持ちはある。ふる

さと教育などあるが、どこの地域でも共通の課題だと思う。

(委員) 教員自身が新聞を読んでいるのではないかと思う。どの学校も毎日小学生新聞が図書館にあると思うが、図書館で読む子はいない。教室にもあればよいと思う。中学校は何種類か新聞を配置して比べて読むこともあっていいのでは。幼保小連携接続について、幼児期から積み上げていくものだと思う。保育所の先生は1人1人をよく見ているので、その教育をつなげていく意識。保育所と小中で上手く連携できるといいと思う。

(町長) 障がいのある児童についてはつなげられている。時間をいただければ取組も進んでいくと思う。

(委員) 友人がICT支援員をしていたが、関わり方が全然違う。常駐で、授業で先生が見れない部分をサポートしたり、授業準備の補助もしたりしている。新しく切り替わるごとに先生もアップデートしないといけないので、ICT支援員がゼロになると授業が追いつかなくなるかもしれない。現状の形でICT支援員の配置をしてもらえると、働き方改革にもつながる。給食センターの機械更新も早めの対応をしてもらいたい。

(町長) 八頭町はICT支援員の導入が早かった。当初は2～3年でいいという話だったが、県下でも後付けで対応している市町もある。常駐が一番いいと思うが、状況を見ながら対応していきたい。

(委員) 八頭町は子供たちへの支援が手厚いと思う。手当てがよくて他町から来た人もいる。数字だけで見ると分かりにくい部分もあるが、来た人が良さを広めてくれる効果もある。若い人の声が反映されることがあればよいと思う。付き合いなどの地域性もあるし、今までしてきたことができなくなることも仕方ない。町として芽を拾い上げるタイミングがあれば、それが八頭町に帰ってくることにつながる。少しでも刷り込まれていればいつか芽が生えるのかなと思う。

(町長) 少子化が顕著。家族の形態が変わっている。同居世帯も比較的少なく、夫婦で働きながら子育ては大変。若い人が求めていることがポイントだと思う。

5 その他 特になし

6 閉 会 17:10